

□ 大阪国際室内楽 コンクール&フェスタ2023

門田展弥

2023年5月、初回（1993年）から30年となる大阪国際室内楽コンクール&フェスタ（主催：公益財団法人日本室内楽振興財団、開催委員会会長：松本正義、コンクール審査委員長：堤剛、フェスタ審査委員長：呉信一）が開かれた。3年毎の開催なので、2020年に第10回が行われる予定であったが、コロナ禍で中止となった為6年振りであった。今や、同コンクールは室内楽の分野で世界的に注目されると共に、その発展に大きく寄与する存在となった。他方、ユーディ・メニューインの提唱によるフェスタは、世界各地の民族音楽や伝統音楽を間近に鑑賞することのできる貴重な機会を提供してきた。このコンクール&フェスタが大阪の音楽文化や国際交流にもたらしてきた成果は特筆に値する。

さて、今回、コンクール（国際音楽コンクール世界連盟会員）には18カ国77団体が応募し、予備審査を通過した21団体が、フェスタには30カ国84団体が応募し、12団体が参加した。コンクールは従来通り、第1部門（弦楽四重奏、10団体）と第2部門（ピアノ三重奏／四重奏、11団体）の二つに分けて実施された。まず、注目の入賞団体を以下に列記する。

《コンクール第1部門》

第1位：クアルテット・インダコ（イタリア）

第2位：ほのカルテット（日本）

第3位：テラ弦楽四重奏団（アメリカ）

《コンクール第2部門》

第1位：カピバラ・ピアノ・クアルテット（ドイツ）

第2位：トリオ・パントゥム（フランス）

第3位：トリオ・ミケランジェリ（ドイツ）

《フェスタ》

メニューイン金賞：テンゲル・アヤルゲー（モンゴル）

銀賞：クインテット・ル・バトー・イーヴル（フランス）

銅賞：スタス&タチアナ（アメリカ）

各グループの実力が拮抗していたので、全審査員の意見が100%一致するという事は恐らくなかったであろう。とはいえ、上記のコンクール結果は十分納得のゆくものである。第1部門第1位のクアルテット・インダコはイ・ムジチヤスカラ座管弦楽団のようなイタリア伝統の柔らかく甘い音色を有しており、今後の成長が大いに楽しみである。第2位ほのカルテット、第3位テラ弦楽四重奏団もインダコに劣らず見事なアンサンブルをみせたが、グループの個性という点においてインダコに及ばなかったのではなかろうか。第2部門は、ピアノ+弦によるアンサンブルと管楽器のアンサンブルが、大会毎に入れ替わりで行われる。（今回は前者）内訳はトリオが9団体、クアルテットが2団体。メンバーが一人増えればグループの結成は、ずっと難しくなるので不自然ではあるまい。第1位に輝いたのは少数派のクアルテットであったが、カピバラの演奏は第1位に相応しく正に圧巻。中でも細川俊夫『レテの水』は見事であった。ちなみに、このクアルテットはドイツを拠点にしているが、ヴァイオリンとヴィオラは日本人、チェロは韓国人というインターナショナルなグループ。近年、音楽界の国際的な人的交流

が順に進んでいる証であろう。こうした潮流がレベルの向上に繋がっているのは確かだが、どこの演奏も似通ったものになってしまうという均一化、平均化が進んでいる事も否めない。将来、国柄や土地柄は一層曖昧になり、ドイツ風とか、フランス風とかいったような固有の色彩は、もう楽しめなくなるかもしれない。それはさておき、コンクールは寧ろ受賞後が問題。ピアノやヴァイオリンの場合は入賞しさえすれば、その後は概ね順調にキャリアを積めるであろう。が、室内楽はグループとして活動を続けること自体困難である。その点、このコンクールは、その後のキャリア形成を強力にサポートしてくれる。反面、実力の近接した第2位以下にももう少し演奏機会が与えられて然るべきではないか、弦楽四重奏以外の編成にもっと門戸が開かれて然るべきではないか、という疑問が湧いた次第。

コンクールに対し、フェスタの各賞は一般審査員の投票によって決まる。従って、その音楽的意義は限定的。そもそも、クラシック系の音楽と民族系の音楽を比較する事には無理がある。ともあれ、今回その中身は以前と比べ様変わりした。即ち、1団体を除き、他は全てスタイルこそ千差万別ながら、欧米系のアンサンブルで占められた。非欧米系はテンゲル・アヤルゲーのみ。しかも、そのテンゲルでさえコントラバスに似た「バス馬頭琴」なる楽器を用いたり、モーツァルトの『トルコ行進曲』やビゼーの『カルメン・ファンタジー』を演奏したのである。もはや、純粋な民族音楽や伝統音楽をこのフェスタで聞くことはあるまい。音楽の欧米化、グローバル化は、あらゆるジャンルにおいて急速に進行しているようである。いずれにせよ、テンゲル・アヤルゲーは、西洋の近代化された楽器でも演奏至難なパッセージを民族楽器でアクロバティックに演奏。会場を熱狂させた。

最後に、オンラインによるライブ配信が、この大会と室内楽の魅力を全世界に広める上で極めて有効であった事、付言しておきたい。